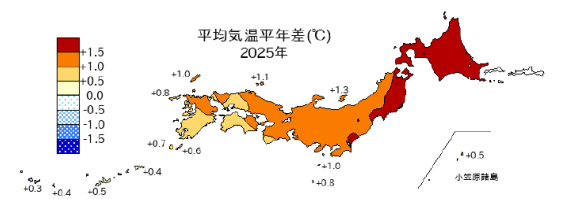


令和7年地球温暖化影響調査レポート（概要）

- 「地球温暖化影響調査レポート」は、都道府県の協力を得て、地球温暖化の影響と考えられる農業の生産現場における高温障害等の影響、その適応策等について、報告のあった内容を取りまとめたもの。
（「農林水産省地球温暖化対策総合戦略」（平成19年6月策定）及び「農林水産省気候変動適応計画」（平成27年8月策定）に基づき、平成19年から取組みを開始。）
- 「令和7年地球温暖化影響調査レポート」の調査対象期間は、令和7年1月～12月である。

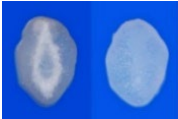
令和7年の気象の概要

年平均気温は全国的にかなり高く、夏（6～8月）の日本の平均気温偏差は+2.36℃と明治31年以降で最も高い値となった。
また、西日本を中心に記録的な多照、年降水量は東日本太平洋側でかなりの少雨となった。



発生報告の多い農畜産物における影響と適応策の実施状況

表中の割合は、影響の有無を面積ベース（畜産は飼養頭羽数）で調査し、算出している。

	影 響				適 応 策	
水 稻	・ 出穂期以降の高温による白未熟粒が発生し、西日本では5～6割、東日本では3～4割の地域に影響がみられた。					・ 白未熟粒の発生抑制のために「高温耐性品種等の導入」が拡大 ・ このほか水管理の徹底、肥培管理の徹底など ・ 虫害対策としては 適期防除の実施など  白未熟粒(左)と正常粒(右)
	・ また、夏季の高温によるカメムシ等の虫害も発生し、北日本では2～3割の地域で影響がみられた。					
		全国	北日本	東日本	西日本	
	白未熟粒の発生	3～4割	1～2割	3～4割	5～6割	
	虫害の発生	1～2割	2～3割	1～2割	1～2割	
果 樹	・ りんごでは、花芽形成期及び開花期の高温による着果不良が発生し、北日本では6～7割の地域で影響がみられた。					・ りんご、ぶどうの着色不良・着色遅延対策として、着色の優れた品種や着色を気にしなくてよい品種の導入など (ぶどうでは、黄緑系品種の導入など) ・ 日焼け果対策として、遮光資材の活用、うんしゅうみかんでは植物成長調節剤の散布、樹冠表層の摘果など  ぶどうの着色不良果
	・ ぶどうでは、果実肥大期から収穫期の高温又は高温・少雨による着色不良・着色遅延が発生し、西日本では4～5割の地域で影響がみられた。					
	・ うんしゅうみかんでは、果実肥大期から収穫期の高温又は高温・少雨による着色不良・着色遅延が発生し、西日本では5～6割の地域で影響がみられた。					
		全国	北日本	東日本	西日本	
	りんご 着果不良	4～5割	6～7割	－	－	
	ぶどう 着色不良・着色遅延	3～4割	3～4割	2～3割	4～5割	
	うんしゅうみかん 着色不良・着色遅延	4～5割	－	1割未満	5～6割	
野 菜	・ トマトでは、生育期から収穫期の高温による着花・着果不良が発生し、西日本では5～6割の地域で影響がみられた。					・ トマトの着花・着果不良対策として遮光資材・遮熱資材の利用、優良品種の導入、かん水・ミストの活用など ・ いちごの花芽分化対策としてクラウンの冷却、遮光資材・遮熱剤の利用、夜冷処理、育苗施設の遮熱など トマトの着花不良 
	・ いちごでは、育苗期から花芽分化期の高温による花芽分化の遅れが発生し、西日本では7～8割、東日本でも4～5割の地域で影響がみられた。					
		全国	北日本	東日本	西日本	
	トマト 着花・着果不良	4～5割	3～4割	3～4割	5～6割	
	いちご 花芽分化の遅れ	5～6割	3～4割	4～5割	7～8割	
花 き	・ きくでは、栽培期間中の高温又は高温・少雨による開花期の前進・遅延が発生し、西日本では2～3割の地域で影響が見られた。					・ きくの開花調整としてかん水・散水の実施、遮光資材・遮熱剤の利用、耐暑性のもつ新品種の導入、電照の利用など
		全国	北日本	東日本	西日本	
	きく 開花期の前進・遅延	1～2割	1割未満	1～2割	2～3割	
畜 産	・ 乳用牛では、夏季の高温による乳量・乳成分が低下し、西日本では4～5割、東日本では3～4割の地域で影響がみられた。					・ 乳用牛の乳量・乳成分の低下対策として牛舎の送風・換気、散水、畜舎の断熱・遮熱剤の使用など
		全国	北日本	東日本	西日本	
	乳用牛 乳量・乳成分の低下	1～2割	1～2割	3～4割	4～5割	

温暖化による新たな品目・品種への取組

- 品目：アボカド（静岡県、奈良県、和歌山県、徳島県、愛媛県）、オクラ（北海道、京都府）など
- 品種：水稻では44都府県において高温耐性品種の導入、
トマトでは裂果等、日本なしではみつ症等の対策として新品種の導入 など



アボカド

【水稻の高温耐性品種の作付状況】

- 近年、水稻の高温耐性品種を導入する都道府県は増加しており、令和7年産では44都府県で導入。
- 導入府県の増加等に伴い高温耐性品種の作付面積は増加傾向で推移しており、令和7年産の作付面積は24.9万ha、主食用米に占める高温耐性品種の割合は18.2%となった。

○ 都道府県別にみた水稻高温耐性品種の作付面積割合及び1等米比率（令和7年産） 単位：%

都道府県	主食用米に占める 高温耐性品種の作付面積割合		高温耐性品種の 一等米比率	主な高温耐性品種
	令和7年産	令和6年産		
北海道	-	-	-	-
青森県	15.1	16.7	93.6	はれわたり
岩手県	-	-	-	-
宮城県	9.1	9.2	94.8	つや姫
秋田県	2.3	2.4	98.1	サキホコレ、秋のきらめき、しふくのみり
山形県	29.5	30.0	97.2	つや姫、雪若丸
福島県	1.8	0.0	94.4	にじのきらめき
茨城県	10.1	6.5	65.7	にじのきらめき、ふくまるSL、一番星
栃木県	33.3	24.5	91.4	とちぎの星
群馬県	9.7	6.0	72.8	にじのきらめき、いなほっこり
埼玉県	28.8	26.2	69.4	彩のきずな、えみほころ
千葉県	39.2	32.7	84.8	ふさこがね、ふさおとめ、にじのきらめき
東京都	20.4	-	-	にじのきらめき、はるみ、きぬむすめ
神奈川県	9.0	8.1	33.6	てんこもり
新潟県	29.4	29.1	80.0	こしいぶき、新之助、ゆきん子舞、にじのきらめき
富山県	25.8	26.1	95.3	てんたくく、富富富、てんこもり
石川県	33.2	33.9	90.4	ゆめみつぼ、ひやくまん穀
福井県	44.6	46.1	90.4	ハナエチゼン、いちほまれ、あきさかり
山梨県	1.7	0.9	51.6	にじのきらめき、つや姫
長野県	0.7	0.3	88.3	にじのきらめき
岐阜県	3.7	2.6	18.4	にじのきらめき、あきさかり、清流のめぐみ、つや姫
静岡県	34.3	33.0	76.0	きぬむすめ、にこまる、にじのきらめき
愛知県	7.2	2.4	44.0	あいちのこころ、にじのきらめき、なつかり、にこまる、みねはるか、きぬむすめ
三重県	1.8	2.7	82.5	なついろ、三重23号（結びの神）
滋賀県	12.0	11.5	61.7	みずかがみ、きらみずき、滋賀82号（仮称）、滋賀酒85号（仮称）
京都府	0.8	1.0	55.0	京式部
大阪府	25.4	17.0	60.3	にこまる、きぬむすめ、恋の予感、てんたくく
兵庫県	9.0	7.9	40.7	きぬむすめ、コノホシ、Hyogo Sake 85（酒造好適米）
奈良県	0.1	-	-	にじのきらめき、きぬむすめ、恋の予感、つきあかり
和歌山県	40.7	35.4	13.5	きぬむすめ、にじのきらめき、にこまる、つや姫
鳥取県	40.8	39.3	56.6	きぬむすめ、星空舞
島根県	47.3	44.7	57.5	きぬむすめ、つや姫
岡山県	29.5	24.7	67.9	きぬむすめ、にこまる、にじのきらめき、つやきりり
広島県	20.8	19.4	70.6	あきさかり、恋の予感、萌えいぶき（酒造好適米）
山口県	22.7	18.7	88.9	きぬむすめ、恋の予感、にじのきらめき
徳島県	29.5	30.4	40.7	あきさかり、ハナエチゼン、にじのきらめき
香川県	29.2	27.8	37.1	あきさかり、おいでまい、にじのきらめき、にこまる
愛媛県	26.4	18.9	57.0	にこまる、ひめの凜、にじのきらめき
高知県	7.8	7.7	28.6	にこまる、よさ恋美人
福岡県	24.9	20.7	62.7	元氣つくし、にじのきらめき、実りつくし、恵つくし、にこまる
佐賀県	66.9	56.3	67.8	さがびより、夢しずく、ひなたまる、にじのきらめき、つや姫
長崎県	49.8	47.4	69.0	なつほのか、にこまる、つや姫、おてんとそだち
熊本県	14.7	13.7	40.0	くまさんの輝き、くまさんの力
大分県	25.7	23.9	68.0	なつほのか、にこまる、つや姫、にじのきらめき、恋の予感
宮崎県	4.1	4.3	42.7	夏の笑み、おてんとそだち、ひなた舞
鹿児島県	24.4	6.0	39.6	あきほなみ、なつほのか、あきの舞、なつまつり
沖縄県	-	-	-	-
全 国	18.2	16.4	78.5	

○ 水稻高温耐性品種の作付面積及び主食用米に占める割合の推移

注：令和7年産の1等米比率は、農林水産省「令和7年産米の農産物検査結果」令和8年3月31日現在（速報値）である。

